

特集号のご案内：

医療における対人コミュニケーション研究の現状と課題

Introduction of Special Issue: Interpersonal Communication Research in Health Care: Current Status and Issue

藤崎和彦¹⁾, 岩隈美穂²⁾

Kazuhiko Fujisaki¹⁾, Miho Iwakuma²⁾

¹⁾岐阜大学医学教育開発研究センター

¹⁾Medical Education Development Center, Gifu University

²⁾京都大学大学院医学研究科医療コミュニケーション学

²⁾Kyoto University School of Public Health, Department of Medical Communication

患者と医療者との対人レベルのコミュニケーションを実証研究する人文社会系研究者と医療系研究者が集まって2001年12月に「医療コミュニケーション研究会」が発足し、20年間の活動を踏まえて2022年4月から「日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構」の一分科会として「日本医療コミュニケーション学会」として生まれ変わりました。

研究会での20年の活動を受け、新たな「日本医療コミュニケーション学会学術集会」の第1回のシンポジウムとして、これまでの医療における対人コミュニケーション研究の現状を踏まえて、今後の課題を明らかにするシンポジウムを開催しました。

座長は京都大学大学院医学研究科の岩隈美穂先生とこの報告を書いている藤崎で、10月2日(日)の14:10～15:40の時間帯で「医療における対人コミュニケーション研究の現状と課題」というタイトルで実施されました。

シンポジストは立教大学の灘光洋子先生、九州歯科大学の鬼塚千絵先生、岐阜大学医学教育開発研究センターの今福輪太郎先生でした。

灘光洋子先生からは、異文化コミュニケーションの視点から、鬼塚千絵先生からは、量的研究としてのRIASや医療コミュニケーション教育研究の視点から、今福輪太郎先生からは、医療者教育研究の動向を踏まえたうえでの談話分析の可能性の視点から、それぞれ話題提供をいただき、活発に議論することが出来ました。

今回は、このシンポジウムの内容を中心にそれぞれのシンポジストに原著として書き下ろしていただき、第1回日本医療コミュニケーション学会誌特集号としてまとめることが出来ました。みなさん、それぞれ読み応えのある論文としてまとめられていると思います。これらのご著作が今後の対人医療コミュニケーション研究に大きく資するものと期待しています。